

園児の能力調査

幼稚園長 望月 ク二

大正八年四月一日麗かな春の日の影を浴びて五歳と六歳になる百餘のいたいけな稚な児は親達に手を引かれて神戸幼稚園に参りました。これは社會的生활の初陣なのであどけない顔にも緊張の色が見え他所行きの態度でかしこまつてゐる姿は實に可愛らしいものでありました。一日二日と過ぎ行くうちに、漸次親の手を離れ附添人を返し、一週日の後には自然に獨立の生活をなしそろ／＼悪戯（自己活動）が始まりまして、先生との間柄友達との交際の親密さが一日一日と濃厚になつて参ります。雀の様な小さな口からはいろ／＼のお話が絶えず飛び出して参ります。幼稚園では此の機會を失はぬ様に幼稚園教育を餘り多く受けない先に児童の一人／＼の能力の検査を致します。検査は身體を始め心の方面即ち智力能カ性質を調べるのであります。固より完全を期する事は出来ませんが、一家庭を違ひ多數の児童を集めてゐるので比較研究をするには最も好都合であります。人は各々異つた天性を持つて生れるもので、

生れた瞬間から五箇年間の家庭生活に夫々順應し、接觸する事物の影響のため全く個々の發達をして居りますが、此發達こそ將來益々發展すべき人類の大切な要素であると思はれます。斯くの如く一人／＼の顔が異なる如く、各個性は異つてゐますが「極めて勝れた」「極めて劣つた」といふ兩極は、割合に少數で大多數は殆んど同じ位に發達し其間共通點を見出す事が出来ます。此の大多數の發達を標準として、總ての教育は行はれて行くのであります。昨年四月この新しい愛らしい児童を預つた私共は「悉くの児童をして普通の標準以下に位する幼児の無いやうに努めさせう」と、決心を定めまして、私共の最も重い任務であると考へて居ります児童の能力の検査を致しました。児童の身體と精神とは頗る密接なる關係を有して有りますので、之を離して考へることは出来ませんが、今茲には精神上のここのみについて申し上げることゝ致しまして、二三の調査を左に摘要して見たいと思ひます。

一、直接ノ記憶

四月の中旬頃やうやく馴れて話をなし得るやうになつた新入の児童を、一人一人私の膝元に呼び寄せ、優しい態度で「私の云ふた通りを云ふて下さい」と左の問題を與へてたゞねました。

(い) 数の反復。

二語一秒の早さにて次の数字を読み之を反復せしむ。

(二) 三六八一

(三) 七二四五五六

其の調査の結果は次の表の如くである。

數の反復

性	別	年齢		年	年
		男	女		
調査人員		五	六		
第一問ヲ答へタルモノ	男	七〇%	二七	人	人
第二問ヲ答へタルモノ	女	七一%	二四		
第三問ヲ答へタルモノ	男	八〇	二九		
完全ニ答へタルモノ	女	五八	七八		
完全ニ答へタルモノ	男	四七	一九	人	人
完全ニ答へタルモノ	女	四三	一九		
完全ニ答へタルモノ	男	二六	四八	人	人
完全ニ答へタルモノ	女	二七	一七		

全ク答へ得ヌモノ	八	一一	一二
一題ニテモ答へタルモノ	一八	一七	三七
	一一	一七	三六
	一一	一七	三六
	一一	一七	三六

此の調査に依つて見れば第一問を答へ得ざる者は劣等者で第三問迄完全に答へ得た者は優等者であります。私は此の劣等者について考へました。これは記憶が悪いのか、發表が出來ないのか、又は恥しいのも少しあつて居ります。此の數の反復は、所謂鶯鶯返しで意味のないことの記憶であります次は。

(ろ) 繰字の反復

これは意味ある事の記憶であります。左の言葉を徐々に明確に話して反復させました方法は、前の通りであります。

(一) 兄さんが出て行つた。

(二) きのふは、おもしろいお話を聞きました。

(三) おかしいあんまりたべるとおなか痛くなります。

其の調査の結果は次の表の様であります。

綴字の反復

性 別	年		年	
	五	六	五	六
調査人員	三三	二六	二六	二六
第一問ヲ答へタルモノ	一〇〇%	六一	一〇〇	五九
第二問ヲ答へタルモノ	五七	六七	九五	九五
第三問ヲ答へタルモノ	一二〇	五〇	八一	九三
完全ニ答へタルモノ	一四〇	四三	七六	七五
全ク答へザルモノ	一六〇	四三	一五〇	一五〇
一題ニテモ答へタルモノ	一一	一二	一四	一六

此の調査に依りますと、第一問を答へ得ない者は最も劣つた者で年齢男女に對する差別があまりない様に考へられます。即ち意味ある簡単なる言葉は、モット前の三歳四歳に於て發達するものと思はれます。此の劣つた者こそ保母の最も努力を要するのであります。

(は) 談話の理解發表

これは次の様なお話を話して聞かせ、それを理解して再び話し得るかを試みたのであります。

二人の子供を両方から膝の上に抱き、内證話をす

話の理解及び發表

るからよく聞いてあちらの先生にも話してあげて下さいと云ふと、子供はうれしそうに耳を澄して聞いて居ます、そのお話を次の様なものでござります。
『ある處に太郎と云ふ子がありました。其の子供がお友達とお二階で遊んで居りましたが、どうしたのかお二階の梯子段からコロ／＼／＼ところがり落ちて頭に大きなコブが出来ました。(コ・デ子供ハ皆ニコット笑フ) 仕方がないから病院へ行つてお医者様に診ていただきました』。

他方に居る二人の先生は、一人／＼子供の話をす
話を聞いて之を左の五段に分ち記憶發表の良否を記載致して見ました。

- (一) 太郎と云ふ子供のあつたこと。
- (二) 太郎と云ふ子供のあつたこと。
- (三) 梯子段から落ちたこと。
- (四) 頭にこぶが出来たこと。
- (五) 病院で醫者に診て貰つたこと。

其成績は左の通りであります。

た此の點に向はねばなりません。

斯くて四月より十一月に至る八箇月間、花を尋ね鳥を追ふて諏訪山上、藤の花垂れ池に經おどる我が園の庭、往來じげき郊外保育の道、如何なる場合にも劣れる子を忘れず、種々の談話を試み導き稻の刈入れ時なる秋になつて再び前と同じ問題につき、四月の検査の時に劣つてゐた者のみを調べて見ました其の結果は左表の通りであります。

性	年	年	五		六	
			男	女	男	女
調査人員			二六	人	二六	人
第一ヲ話シ得タモノ			五四%		二六	
第二ヲ話シ得タモノ			一九		二六	
第三ヲ話シ得タモノ			五四		五四	
第四ヲ話シ得タモノ			三一		五六	
第五ヲ話シ得タモノ			三八		五六	
完全ニ答へタルモノ			七二		六二	
全ク答へザリシモノ			八四		五九	
少シニテモ答へタルモノ			六七		五六	
	一七	五〇	六〇	六七	六七	六七
	六	四二	六二	八四	八四	八四
	三	一一	一〇	三三	三三	三三
			一八	一八	一八	一八

年	年	調査人員		反復数		綴字ノ反復		話ノ發		理解	
		五年	六年	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	表	
	一一	一一	一一	一	一	一	一	一	一	一	
	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一	一	一	一	一	一	一	
	五〇	五〇	五〇	二	二	二	二	二	二	二	
				三	三	三	三	三	三	三	
				一	一	一	一	一	一	一	
				二	二	二	二	二	二	二	
				三	三	三	三	三	三	三	
				一	一	一	一	一	一	一	
				五	九	九	九	九	九	九	
				四	九	九	九	九	九	九	
				五	八	八	八	八	八	八	
				五	八	八	八	八	八	八	

(答) 得たる人員は凡て(百分比)を以て表はす。

(二) 數の反復に於ける第三間に、むづかしと見へて答へ得る者なきも第一、第二の二間は普通の標準まで達した。

善良なる條件の下に置かれた満四年の幼兒は、日常必須の言語の形式(音聲)を習得し、其の使用に、略、熟達すといふことは、松本、檜崎兩先生著の「教育的心理學」に記されてある通りであるとすれば、五歳六歳の幼兒は、これが完成期に進みつゝあるので、言語の教育の最も大切な時であります。然るに右の調査に依つて、此の簡単なる話の理解發表が全く不可能である兒童があるとすれば、保姆の努力はま

(三) 話の理解發表も、亦成績良好にして保姆は満足したるも、前記の男兒はこれも遂に一言も答へなかつた。この一人の爲めにこれよりは最善の方法と努力を爲さねばならぬ。(以下次號)